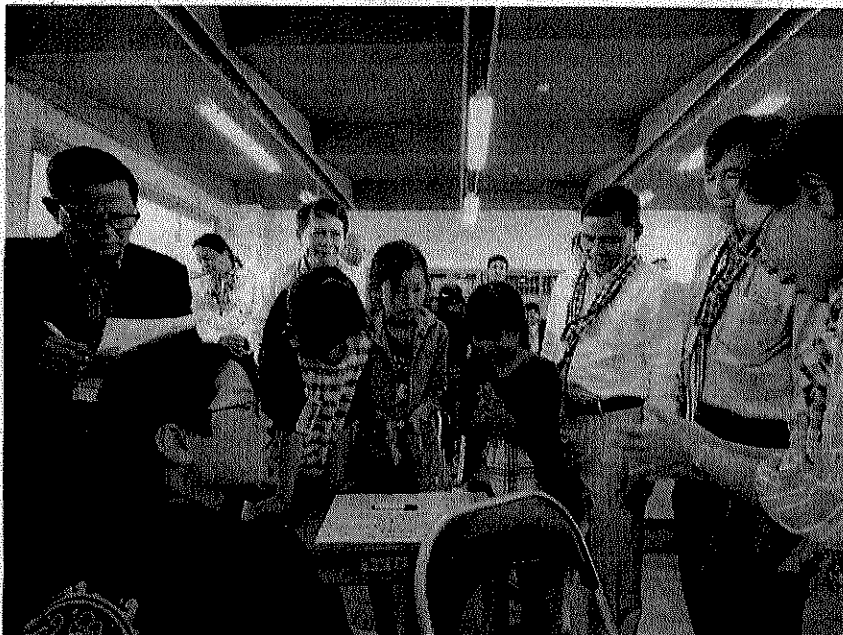


音楽教科導入へ視察

カンボジアの教育省視察団が7日、つくば市郊間の市立葛城小学校(豊島豊校長、児童292人)を訪れ、音楽の授業を視察した。同国の学校には現在、音楽の教科がなく、国の学校教育に導入していく予定で、日本の音楽授業を参考にすることが目的。迎えた同小は、楽器を一切使わずにできる音楽の授業を披露した。

カンボジア教育省

視察は、カンボジアを支援しているNPO法人「J」が、訪れたのは同国教育省関係者など計20人。同小4年組を受けたことなどから実現。同国の音楽部門アドバイザーを務める、田中健次、茨城大教育学部教授から推薦を受けた同小の佐々木香をテーマに、児童らが4、



児童たちの即興の曲作りを視察するカンボジアの教育関係者ら＝つくば市郊間の葛城小学校

つくば・葛城小 楽器使わない授業披露

5人1組に分かれ、来訪者へささげる「応援歌」作り挑戦した。

即興の曲作りは、「言葉」をリズムに乗せ、作った曲を歌う」方法で進められ、児童が手拍子でリズムを取るなどして完成。一行への歌のプレゼントとした。楽器がなく、電気が通っていない学校も多い同国でも、可能な音楽授業の一つとして披露した。

協力して曲作りをし、歌う児童らを一行は、興味深げに視察。中には児童に交じって一緒に手拍子をし、曲作りに参加する者もあり、異国の教育を熱心に学んだ。

同国教育青年スポーツ省副総局長のモク・サロン氏は、日本の教え方に感心した様子で「児童が積極的に授業に参加している。それが一番印象に残った」と話した。

サロン氏はさらに、佐々木教諭に「若い新入生に音楽を教える場合、どうやって始めているのか」などと質問。佐々木教諭は「遊びながら、短い曲で教えるなどし、生活と音楽を近い感じにして始めています」と答えた。

視察終了後は児童と視察団が交流会を通じて触れ合った。

(高阿田総司)